

| 達成度（評価） | |
|---------|--------------|
| A | ：十分達成できている |
| B | ：おおむね達成できている |
| C | ：やや不十分である |
| D | ：不十分である |

| 学校名 | 伊万里市立立花小学校 |
|-----|------------|
|-----|------------|

| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・全項目とも意識的に取り組み、B以上を得た。保護者アンケートでも、昨年度に続き、学校教育活動全般に肯定的な評価と、一定の理解をいただいた。更に保護者・地域との連携・協働を図り、「地域とともにある学校」につなげていく。 ・県学習状況調査等の結果を更に詳細に分析し、学力向上については具体的な手立てを模索する必要がある。また、全職員の共通理解のもと、共通実践、継続した取り組みを行っていく必要がある。 ・コロナ禍で見直した行事の精選を契機として、学校の教育活動や教職員の業務全体を成果と課題を踏まえて、更に見直し・充実させていく必要がある。 |
|------------------|--|
|------------------|--|

| 2 学校教育目標 | たくましく心豊かな立花の子 ～元気と笑顔あふれるカラフルな学校～ |
|----------|----------------------------------|
|----------|----------------------------------|

| 3 本年度の重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> ① 生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな身体の調和のとれた児童の育成に努める。 ② 感謝の気持ちを大切に、楽しく学び合い、高め合う校風を醸成し、特色ある学校を目指す。 ③ 各主任・部長等を核としてチームとしての機能を高め、協働意識を高く持ち、報告・連絡・相談を密につながりながら全職員一致協力のもと課題に対処する。 |
|------------|--|
|------------|--|

| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 |
|---------------|--------|
|---------------|--------|

| (1) 共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 主な担当者 | | |
|------------|--|---|--|-------------|---|-------|---|------------------|
| 評価項目 | 重点取組 | | 具体的取組 | 最終評価 | | | | |
| | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | | 達成度 (評価) | 実施結果 | | 評価 | 学校関係者評価 意見や提言 |
| ●学力の向上 | ○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 | ○「授業中、めあてを持って学習し、学習した内容を振り返ることができている」と回答した児童80%以上 ○「自分の考えを分かりやすく書くこと・正しく伝えること」「友達のことをしっかりと聞くこと」が「できた」と答える児童の割合を80%以上にする。 ○教師アンケートで「主体的、対話的で深い学びの実現に向けて授業に取り組むことが「できた」と答える教員の割合を100%にする。 | ・教職員間で学力向上対策評価シートを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・児童の学ぶ意欲に基づく『立花型授業』の定着を進め、学びの習慣の確立を目指す。 ・児童が学び合う場を設定し、自分の考えを的確に表現したり、友達のことを聞いたりして、理解を深めることのできる児童を増やす。 | A | ・「主体的、対話的で深い学びの実現に向けて授業」を意識し、「分かりやすい授業づくり」に取り組んだ教師の割合が96%であり、マイプランの成果目標を達成した教師がほとんどであった。そのため、児童アンケートで「授業がよく分かる」と回答した割合が80%であり、多くの児童が「めあてを持った学習」「学習内容への振り返り」に取り組んだ。 ・基礎学力向上の取組として4～5年に対し、放課後学習会を実施した。主に記述問題に取り組み、徐々に児童が書くことへの抵抗が少なくなってきた。「分かりやすく」「理論立てて正しく」書くことの指導に力を入れていく。 | A | ・めあてをもって学習することで児童が学ぼうとする気持ちが出てくる。 ・分かる授業をより一層工夫し、学力向上に力を入れてもらいたい。 ・学習についても家庭と連携を図るべきである。 | 学力向上担当 |
| | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○自分を大切に、向上心と思いやりの気持ちをもって行動できる児童80%以上 ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 | ・「友達のいいところさがし」を実施する。 ・伊万里市「心の教育3セット」の活用を図る。 ・ふれあい道徳や道徳に関するアンケートを実施する。 | A | ・「思いやりの気持ちをもって行動できた」と肯定的に回答した児童が94%で、中間評価を上回った。 ・年2回「がばいシート」を活用し、児童が学級のことや友達のことをどのように感じているのか把握した。また、教員間で共有したりして児童の豊かな心を身に付ける指導に生かした。 ・道徳教育推進教師より継続して「道徳だより」が発行され、指導方法や授業改善についてなどを全職員で共有した。 ・道徳の価値項目に関する児童へのアンケートにおいて、ほぼすべての項目について肯定的な回答が80%以上であった。 | A | ・90%以上の児童が思いやりの気持ちを持ったり、接したりすることができたことは素晴らしいと感じる。今後も継続して取り組んでほしい。 ・日々の生活にて「ありがとう」や感謝の気持ちを育むためにもフラワー大作戦や道徳教育を継続して取り組んでほしい。 | 人権・同和教育担当 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ防止等（いじめの定義理解、いじめ防止のための取組、事案対応等）について組織的対応ができていると回答する教員90%以上 | ・毎月末の「月のこころ」記入、年2回のアンケート実施で情報を得やすくする。 ・いじめ対応についての研修・会議を学期に1回以上行う。 | B | ・「月のこころ」で、早期発見・対応ができている。また、アンケートに「組織的に対応できている」と答えた職員も96%に増加した。「教師の見取り」によるいじめ覚知の数が少なかった点を踏まえ、来年度は、児童の実態把握について、「月のこころ」だけでなく、職員連絡会での報告を工夫し、より一層共通理解を図りながら対応していきたい。 ・いじめに対し素早く対応できるように、マニュアル等を常に見ることができるよう工夫した。 | B | ・いじめ防止に努力していることが分かる。 ・いじめは早期発見、早期対応が大事だと思う。できていないと感じる部分を明らかにして取り組んでほしい。 ・日々の生活の中でマイナスな言葉を発したときに、子供たち自身から「そういう言葉は使わないほうがいい」という声掛けができるようになると思う。 | 教育相談担当 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 | ・全ての教科や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け、実現を目指して意欲的に取り組もうとする態度を育むキャリア教育を推進する。 ・コミュニティスクールを活用し、学校と地域が一体となった体験活動などにより、地域への理解と郷土への誇り・愛着を育む。 | B | ・学習活動や学校行事の実施時に常に児童一人一人が目標を設定するよう意識化を図った。活動の終末には、目標に対しての自分自身の成長の振り返りをさせるとともに、今後の取組も考えるようにした。 ・「夢や目標に向かって努力している」と回答した児童が89%と、中間評価より4%増加した。 ・キャリアパスポートを活用し、特に振り返りを大切にしながら、目標に向かう気持ちを高めるようにした。今後は、児童の振り返りや活動を教師が認め、より自己肯定感を高めていく。 ・地域人材や地域産業を生かした学習に積極的に取り組んでいく。 | B | ・総合的な学習の時間や特別支援教育の自立活動など、教育活動に地域をよく活用されている。 ・地域を生かした教育活動により一層取り組んでほしい。 ・地域としても、子供会活動との連動を図り、保護者自身の意識を変えるように取り組んでいきたい。 | 生涯学習・地域連携担当 |

| | | | | | | | | | |
|----------------------|------------------------|---------------------------------------|--|--|---|--|--|---|-------|
| | ○特別の教科道徳の授業実践と研究成果のまとめ | ○道徳科の教材研究、授業実践に意欲的に取り組んだ教員90% | ・道徳科について、指導と評価の在り方について全職員で研修を深める。 ・ふれあい道徳や道徳に関するアンケートを実施する。 | A | ・低中高の各学年グループで合計7回の研究授業を授業研究会を行い、道徳科の授業づくりについて研鑽を積むことができた。 ・本年度の校内研究における各授業者のまとめと専門部における成果課題を明らかにして研究集録を作成した。 ・「道徳だより」を発行し、保護者に向けて本校の取組について紹介することができた。 ・道徳科の教材研究、授業実践に意欲的に取り組んだ教員は95%であった。 | A | ・道徳科の授業でどんなことをされているかなど、情報発信がよくなされている。 ・保護者参加型のふれあい道徳に取り組まれていたので、今後も継続してほしい。 | 様式1(小・中) 校内研研究主任 ST | |
| ●健康・体づくり | ●安全に関する資質・能力の育成 | ●児童の交通事故を0(ゼロ)にする。 | ・交通教室等の学校行事や全ての教育活動を通して、児童の危機予測や危機回避の意識を高める。 ・子ども見守り隊、地区交通対策協議会との連携を密にする。 | B | ・大きな交通事故などはなかったが、道路の横断や自転車のマナーなど、放送で注意を呼びかけることがあった。また、生徒指導について外部の方々から情報提供を受け、「帰宅時間の遵守」「危険な遊び」などについて指導を行った。今後は、危機管理能力の育成に力を入れ、児童だけでなく、保護者と協力しながら指導していく。 ・不審者等については学校用のメールや放送、学級指導によって安全な登下校について指導を行うことができた。 ・警察の方々や、子ども見守り隊の方々、中学校の生徒指導担当の方と一緒にパトロールすることで、様々な情報を交換することができ、児童の指導に生かすことができた。 | B | ・班登校ではないので、家が近くの児童同士と一緒に登校してもらうように地域でも呼びかけている。 ・小学校前の交差点は、歩車分離式信号になっているが、赤信号で車が交差点内に侵入してくるケースがあり、今後も十分な見守りが必要である。 | 生活指導担当 安全的行事指導担当 | |
| | ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 | ●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上 | ・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりの発行をする。 | A | ・学校評価アンケートにおいて、給食をほとんど残さずに食べている児童が9割、「食育」への啓発を含めた給食指導に取り組んだ職員が9割であった。 ・給食週間では給食センターについて知ることができ、感謝の気持ちを持つことができた。「今日の給食おいしかったよ。」と声をかけてくれる温かい気持ちが育めた。 ・「食育だより」を定期的に発行できた。 | A | ・「食育だより」が定期的に発行されており、食育の大切さへの意識の高まりを感じている。今後も、その重要性について情報発信をしていただきたい。 ・食物アレルギー対応について情報発信してほしい。 | 給食担当 | |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・定時退勤日の確実な実施をする。 ・在校等時間の正確な記録と把握をする。 ・校時程を有効活用し、学級事務・成績処理の時間の確保に努める。 | B | ・定時退勤についてはプレート等を掲示したり、連絡会で呼びかけたりしたが、まだまだ確実な実施に至っていない。今後は、他校の実践等を参考にし、職員一人一人が意識化できるような取組を行っていく。 ・毎月全員の残業時間を確認し、残業時間が多い職員に、声掛けを行った。 | B | ・先生方も心身ともに健康な状態で児童と向き合ってもらいたい。 ・ワークライフバランスを保ちながら業務ができる環境づくりをしてほしい。 | 教務部 | |
| | ○学校行事や校務分掌の見直し | ○学校行事や校務を見直し、働き方に対する改善が図れたと考える教員80%以上 | ・各分掌間の連携及び情報共有を図る。 ・校務分掌に添った各部会の業務内容、役割分担を見直し、再編成を図るとともに、適宜、組織の点検、改善を行う。 | B | ・新型コロナウイルス「5類」移行後、学校行事の在り方の見直しをすることで、児童や保護者にとって必要な行事かどうかを改めて考えることができた。 ・校務サーバー上のデータの共有やTeamsでの動画配信やデータのやり取りをすることで、資料作成等の時間削減ができた。 | B | ・学校行事については、より地域が関われる内容を、学校だけでなく、地域や育友会と連携し、実施していく必要がある。 | 教頭 | |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | | |
| | 重点取組 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
| | 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| | ○個に応じた特別支援教育の推進 | ○教員の専門性と意識の向上 | ○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上 | ・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有 ・個別の支援計画にもとづく支援体制を構築し、校内の連携を図る。 | B | ・研修会は夏期休業中と3学期に実施した。 ・気になる子について、必要に応じてケース会議で対応を検討することができた。また、特別支援教育支援員との情報交換や連絡会での報告等で情報共有もできた。 | B | ・授業参観をする中で、特別支援学級での個々の実態に応じた手立てがきめ細やかになされていた。 | |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <p>・全項目とも意識的に取り組み、B以上を得た。保護者アンケートでも、昨年度に続き、学校教育活動全般に肯定的な評価と、一定の理解をいただいた。更に保護者・地域との連携・協働を図り、「地域とともにある学校」につなげていく。また、コミュニティスクールを生かし、地域人材や地域産業、郷土の歴史等の積極的な活用を図っていく。</p> <p>・学力向上を図るため、県学習状況調査等の結果を更に詳細に分析し、具体的な手立てを模索する必要がある。また、全職員の共通理解のもと、共通実践、継続した取り組みを行っていく必要がある。</p> <p>・児童が安心して学校生活を送ることかができるよう、他者への思いやりの気持ち、自己肯定感を高める教育実践に努めていく必要がある。また、教師自身がいじめに対して常にアンテナを高くし、児童に関わることができるようにしていく必要がある。</p> <p>・学校の教育活動や教職員の業務効率化については、成果と課題を踏まえて、更に見直し・充実させていく必要がある。</p> <p>・教育相談や特別支援教育及び個別の支援について、共通理解のもと、職員間での組織的な対応ができた。また、保護者や関係機関と連携を密に図り、協力しながら、適切な指導や支援にあたることができた。専門機関からの指導等を積極的に取り入れながら、更に充実を図りたい。</p> |
|----------------|--|